

2022年度 助成活動報告書

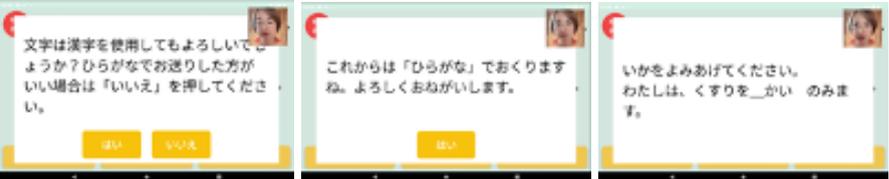
2024年 4月 15日

公益財団法人バリューHR健康寿命延伸財団
代表理事 藤田 美智雄 殿

貴財団の2022年度助成による活動(事業)に関し、別紙の通りご報告いたします。

団体名	Hubbit株式会社
代表者	臼井 貴紀
報告担当者	臼井 貴紀
活動(事業)名	コンシェルジュ付きタブレットのAI機能開発によるフレイル予防事業
助成額	150万円

(I) 活動実施報告書 ※A4別紙に記載も可

1.実施期間 2022年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日
2.具体的な実施内容 コンシェルジュ付きタブレットのAI機能開発によるフレイル予防事業として①画像認識AI ②相槌AIの開発を行った。
3.成果及び結果 画像認識においては、face APIを活用し独自AIの開発というよりは既存のAPIを活用した開発を行った。相槌AIについては、主に認知症の方向けのリマインド機能をベースとしたAI開発(アバター含む)の開発を行い、実用テストを行うことができた。 アバターやAIと聞くと、一定ネガティブな印象を持ってしまい、「本当に大丈夫？」といった不安を感じられる方もご家族でいらっしゃるものの、実際に使ってみると思ったよりもスムーズに動くという声を多くいただいた。 インターネットに詳しい世代だと、アバターとの会話は違和感が出てしまうかもしれないが、実際に利用してくださる方がデジタルに慣れていない高齢者の方だからこそ、成り立つのかもしれないと感じた。 尚、当社の開発するアバターAIについては、独自のロジック(相槌AI)とChatGPTの連携で開発されており、基本的にはChatGPTを活用した会話型のモードは利用しない方向で進めている。 以下、開発イメージ。 タブレット側)  管理画面側) 
4.今後の課題等 今回、開発する過程において、高齢者特有の間や、会話の遮り、同じ内容の繰り返しなど一般的には発生頻度が低いものの対処に苦労をした。ただ、一言に高齢者と言っても特に認知機能が低下した方などにおいてより顕著に違いが見られたため、その傾向を捉えるためにデータを集め、質を担保していきたい。 そうすれば、高齢者が機能低下をしたとしても、その人がその人の力で自分らしく生活する社会を築けると確信している。 今後、高齢者の増加、要介護者の増加だけでなく、介護する側の人数が足りなくなっていく中で、AIによる貢献の可能性については今後も模索をし続けたい。

(Ⅱ) 支出内訳

経費	内容	金額(税込)
人件費	社内メンバーの人件費	12,208,705
サーバー費用	サーバーの維持費用	4,754,120
システム費用	システムの維持費用	4,478,994
施設利用料	オフィス費用等	1,209,879
消耗品費	雑費	2,424,466
外注費	開発、要件定義	34,578,277
合計		59,654,441

以上